

「最高の宝」  
箴言 3：1-20

今日の御言葉は、「わたしの教えを忘れるな」「わたしの戒めを心に納めよ」「心の中の板に書き記すがよい」と、神さまの教えを心の内に蓄えることの大切さを強調しています。そして、その教え、戒めの最初として3節に「慈しみとまことがあなたを離れないようにせよ」とあります。新改訳聖書では、この「離れないようにせよ」を「捨ててはならない」と訳しています。つまり、私たちが御言葉を聞けないときというのは、実は、神さまを捨ててしまっているときなのです。神さまの方は、決して変わることはない愛を注いでくださっているのに、それを私たちは捨ててしまう。これほど神さまを悲しませることはありません。

その次の「それらを首に結び」というのは、神さまの愛を絶対にはずれないように首に結び付けておくくらい、神と私、人と私の関係において忘れてはならないということです。なぜなら私たちの行動には、必ず心が伴うからです。ですから、私たちがどのように生活しているかによって、私たちが本当に慈しみとまことに満たされているかがわかってしまうのです。

御言葉は標語やキャッチコピーではありません。神さまの与えられる教えは、生活や行動と密接な関係があるのです。5節以下には「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。」とあります。「心を尽くして主に信頼する」とは、自分が常に神と人との前に真実に歩もうとするときに、必ず神さまが共にあって守ってくださるのだ、ということを感じることです。ですから「自分の分別には頼らず」、神さまの御心はどこにあるのかを吟味することが求められているのです。そのようにして、常に自分の行いが神と人との前に真実であるかどうかを考え行動するのです。

しかしながら、いくら神さまの御心を尋ね求めている、人間は不完全な者です。失敗を犯すこともあります。けれども、常に主を覚えて歩く者の道は、たとえ人間的な弱さによって失敗したとしても、神さまがまっすぐにしてくださる。神さまが、罪の責任を負ってくださり、神さまが、私たちがまっすぐに歩む者としてくださるのです。だからこそ、私たちは、神さまが定められた目標に向かって祝福された道を歩むことが出来るのです。

箴言は古くからソロモン王によって書かれたとされてきました。ソロモンは、知恵はどんな富よりも、その価値において勝っていると言います。14節には「知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、彼女によって収穫するものは金にまさる。」と記されています。このことは、持てる物はすべて持ち尽くしたソロモンだからこそ言えることなのでしょう。しかし、「知恵とは何か」という知恵の本質を理解するならば、たとえソロモンのように物質的に豊かではなくても、私たちに理解できるはずで、すなわち知恵とは、熱心に求め続ける者が受け取ることの出来る神の愛です。この神さまの愛によって、私たちの人生は豊かに変えられるのです。

そして、神さまから知恵をいただいたなら、神さまから離れたくはないはずで、この「神さまから離れない」ことが、私たちにとっての本当の財産なのではないでしょうか。長寿も、富も、名誉も、平和（16-17）も、あつたらなお素晴らしい人生となるでしょう。でも、もしかしたら、その基準は私たちの想像するものとは違うかもしれないのです。何しろ与えてくださるのは神さまです。しかし、たとえ私たちの考えているような富でなくても、神さまの知恵をいただき、神さまの教えを心に留め、心の板に刻んでいるなら、神さまの与えてくださるもので十分に満足できるのではないのでしょうか。また、知恵は、自分の中に納めておくだけのものでもありません。知恵は生活そのものなのです。神さまと、そして人との関係の中に用いられる、私たちにとって最高の宝なのです。